

様式第3号(第12条関係)

会 議 録

会 議 の 名 称	第2回吉川市産業振興会議
開 催 日 時	令和元年12月26日(木) 午前・午後 9時30分から 午前・午後11時00分まで
開 催 場 所	吉川市役所 202会議室
出席委員(者)氏名	【産業振興会議委員】 生田 孝之、近藤 旭、柏瀬 浩史、太田 久年、染谷 直志、 田口 政博、石井 和也、山崎 守(産業振興部長)
欠席委員(者)氏名	鈴木 努、石田 宏記、池田 慶一
担当課職員職氏名	市民生活部 副部長 小林 千重 産業振興部 商工課 課長 櫻井 敬雄 商工課 課長補佐兼商工観光係長 深堀 邦彦 商工課 消費労政係長 木村 みのり
会議次第と会議の公開又は非公開の別	○第2回吉川市産業振興会議 1. 開会 2. 市長あいさつ 3. 会長あいさつ 4. 新委員あいさつ 5. 議題(公開) (1) 産業フェア(異業種交流会)について (2) 経済的困難な生徒への支援について 6. その他 議会の報告について 7. 閉会
非公開の理由 (会議を非公開にした場合)	
傍聴者の数	0人
会議資料の名称	次第 資料1 産業フェア(異業種交流会)について 資料2 経済的困難な生徒への支援について 資料3 委員名簿 資料4 議会の報告について

会議録の作成方法	<input type="checkbox"/> 録音機器を使用した全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 録音機器を使用した要点記録 <input type="checkbox"/> 要点記録
会議録確認指定者	染谷 直志、田口 政博
その他の必要事項	

審議内容(発言者、発言内容、審議経過、決定事項等)	
	<p>○第1回吉川市産業振興会議</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 市長あいさつ 3. 会長あいさつ 4. 委員及び事務局の紹介 <p>太田会長より、会議録確認指定者として染谷委員、田口委員を指名。各委員了承。</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 議事(公開) <ol style="list-style-type: none"> (1) 産業フェア(異業種交流会)について <p>資料1により説明</p>
委員	<p>市民まつりに合わせて開催するというのは、産業フェア全体を市民まつりの中で行うということか。</p>
事務局	<p>その通り。</p>
委員	<p>従来の就職相談会は今回は行わないのか。</p>
事務局	<p>切り離して他の機会に行う。</p>
市長	<p>産業フェア自体も土日開催したり、平日開催したりしてきた</p>

<p>部長</p>	<p>が、人出が少ない状況であった。アワードなどはより多くの人に知ってもらいたいので、次は市民まつりにぶつけてみようかと考えている。今度の2月に開催する産業フェアは、産業振興計画の中でも「農業」を産業の一つとして捉えようというのが特徴であることから、農業従事者にも参加いただき、商業者・工業者とタイアップするきっかけになればと思っている。その一例として6次産業化をテーマにした。</p> <p>産業振興計画にもある農・商・工の連携として最も見やすいのが6次産業化だと考えている。農業者が全部やるのではなく、商業者が商品開発して販売したり、工業者が加工したりいろいろな手法があると思うので、産業振興会議の中で話していきたい。農業者を増やして会議を重ねていければと考えている。</p>
<p>委員</p>	<p>産業フェアを農業者の方が見に来て、6次産業のようなものを見せられる農業者は吉川にどのくらいいるのか。</p>
<p>委員</p>	<p>個人でスーパーに卸したりなどこれまでと違う取り組みをしている農業者はいるが、6次産業化を大々的にやっている農業者はいない。</p>
<p>部長</p>	<p>卵をケーキ屋さんに卸していたり、トマトをレストランに卸したりなど材料の提供であればできる農業者はいる。商品化しませんかというところまでは手が回らないというケースが多い。</p>
<p>委員</p>	<p>全国的には6次産業として成功している例がたくさんある。産業フェアを吉川だけに限定しないで、そういう人たちを連れてきて吉川の農業者に見て学んでもらわないと伝わらないのでは。</p>
<p>市長</p>	<p>県フェアのとき6次産業化のブースがたくさん並んでいたの、そ</p>

部長	<p>ういう人たちに出てもらえれば。</p>
委員	<p>県の担当者に確認してみる。</p>
委員	<p>農・商・工の事業者にブース出展の募集をかけているということだが、実際に出した人たちが誰にアピールするのかそこが見えていない。どこまで裾野を広げるか、市内だけで枠組みを作ろうとしたら難しい。大きなビジョンをもって、アドバイザー的な方を呼んで自分たちの産業を見てもらってアドバイスを受けるなどやっていかないと伸びていかないと思う。</p>
部長	<p>お客さんを誰にターゲットを絞るのが一番ポイントだと思う。6次産業をやるということは素晴らしいと思うが、それを吉川市で進めるときに何が足りないのか考えたときに、まだ農業者の方のアプローチが弱いと感じている。農業者をメインターゲットに絞ってやった方がいいのではないかと考える。農業者は、自分たちのやっていることに農機具メーカーなどの方から意見をもらえたりすると興味がわくのではないか。農業者を呼びたいと思ったら、農業者が来たいと興味がわくものが何かないと来てもらえない。</p>
委員	<p>県フェアに出ている6次産業化の事業者から話を聞くと、これまでの農業では後継者がついてこないのが、商品開発をすることで興味を持ってもらったなどがあった。産業フェアの目的として、6次産業化で後継者作ることも一つ、農・商・工の連携を図ることも一つ、新商品開発補助金を作ってもなかなか申請がない状況もあるので、そんなことも含めて産業振興会議で議論していきたい。</p>
委員	<p>事業承継の話も出たが、後継者がいないこともあるが、農業を息子に継がせたくないという話まで聞く。そういった農業の事業承継ブースなどもあればいいのでは。</p>

<p>市長</p>	<p>話を整理したい。産業フェアは、農業者に来てもらって、米や野菜を作るだけじゃなくそれを加工して商品にしていくということを少し感じてほしい、そして産業というところに農業も乗ってきてほしいと思っているそのスタートの日だという認識。だから来てもらいたいのは農業者で、農機具だったり事業承継だったりがあって、こんなものが作れるのかというサンプルがあって、それには県内の6次産業事業者がブースを出してくれて商品について語ってくれると実感が出るということ。</p>
<p>委員</p>	<p>吉川の農業、商業、工業が結び合って本当に6次産業ができるのかということ。出来ないのであれば出来る事業者を呼んで、吉川の農業もうちと結びつけばこんなものができるよというものを示せることが大事。</p>
<p>市長</p>	<p>出してもらって6次産業をしている事業者にメリットはあるのか。</p>
<p>委員</p>	<p>OEMという考え方で、自分が作っているものが何と結びつくのかというマッチングを見つけてもらえるのか、農業者が見てもらって可能性を見つける場だと考える。</p>
<p>委員</p>	<p>例えば6次産業事業者がネギドレッシングを出していれば、吉川の農業者がうちのネギ使ってみませんかとなってマッチングが生まれる。</p>
<p>委員</p>	<p>マッチングによってお互いにとってメリットがある。うちの野菜でこんなのが出来た、うちの技術はこんなことが出来るとPRになる。</p>
<p>市長</p>	<p>6次産業事業者側としても、生産者を知ることが出来るということだけで出展しようというモチベーションになるのか。</p>

委員	<p>それは微妙。生産者としてどれだけの生産数量やリスクを受け止めるものがあるかどうか。そしてそれが商品化されると、どれだけのロットがあつてどのようにさばくのか、売り先まで考えないといけない。</p>
市長	<p>事業者も生産者を探しているのか。</p>
委員	<p>事業者もOEMをしたいと思っている。</p>
市長	<p>産業フェアに生産者がこれだけ出るから来てもらえませんかといえれば来てもらえるのか。マッチングがメインなら。</p>
部長	<p>それだけでは難しいので、そういう可能性もあるということと、商品のPRもしつつ6次産業化のやり方を教えてもらいたいので出展してもらえませんかというやり方だと思う。</p>
市長	<p>そしたらパネルディスカッションをやめて、そういう人たちのプレゼンをメインにやってもらった方がいい気がしてきた。</p>
委員	<p>なまず御前がどうやって生まれたのか、どういう経緯なのかみたいな話しの方が興味ある。</p>
部長	<p>まずは県フェアに出ている出展者に声掛けをしてみる。ネギドレッシングやジャムもあった。</p>
市長	<p>そういう人たちに語ってほしいと言えば出てもらえるのでは。</p>
委員	<p>あまりマッチング要素が強くなるとどうかと。本来だったら市内で加工もやりたい。地方でやっている6次産業化というものは、流出を</p>

<p>部長</p>	<p>避けるために、自前でやっ払いこうというもの。あまりよそとのマッチングばかりになるとただの流出になってしまう可能性がある。商品となって売る出口まで外になってしまう。今は吉川で出来ないけれど、いずれは市内で加工して売るまでやることで産業発展になるのだから、そこをしっかりと捉えないと生産するだけで外に流れていってしまう。</p> <p>まずは、取り引きは二の次として、6次産業で商品が出来るまでの過程を教えてもらう。</p>
<p>市長</p>	<p>工業者でも、農業者と植物工場を結びつけるオーナーとなる人もいると思うので、そういう人にも来てほしい。生産者と製造だけではなくて、まったく別のところからおもしろいと思ってもらえたら。</p> <p>6次産業事業者や市内でもそのような例があれば、その商品開発について語ってもらい、ブースも出してもらえるといい。</p>
<p>事務局</p>	<p>農業者の現状は、まだ6次産業化に向いているかどうか微妙なところ。段階として農業者がこんなもの作ってるんだとPRし、工業者と結びつくことでこんな製品も作れるのかと感じてもらうイメージ。今の段階で6次産業ありきで企画すると、生産者との間に溝が出来たまま進んでしまうのではないかという懸念がある。</p>
<p>市長</p>	<p>その流れだと6次産業事業者の商品と生産者の作っているものが並んでいるだけでも、特にPRブースがなくてもいいのでは。</p>
<p>委員</p>	<p>生産者が展示会を見に行くのもいいのでは。そういうものを知って初めて農業者も工業者も商業者も気づきがあつて、それから産業振興会議でどんなことが出来るか話せばいい。</p>
<p>委員</p>	<p>吉川で6次産業やるのであれば、農業者をどう巻き込むかが重要。</p>

市長	<p>吉川にはやる気のある若い農業者がいるので、その人たちを巻き込んでいけば可能性がある。</p>
委員	<p>やる気のある農業者に産業フェアに来てもらって、産業振興会議にも出てもらえばいい。そういう農業者を増やしていかなければ6次産業化は難しい。やる気ある農業者を巻き込んで、その人たちの農業を見せて、増やしていければ吉川の農業は伸びていく。</p>
市長	<p>産業フェアは、やる気のある農業者に来てもらいながら、商業系、工業系にも来てもらって、ブースは成功した方たちの商品を出展してもらい、宣伝も兼ねて知ってもらう場にする。パネルディスカッションはその人たちに出てもらってどのようにやってきたのかを語ってもらう。</p>
委員	<p>他県でも生産者が引っ張っていった6次産業プロジェクトはあまりない。引っ張っていくのは加工側かアウトプット側で、枠組みが出来ていても農業者はなかなか乗ってこない。それでもやるのは流出を避けるため。地元の産業を守るためにやっているというエネルギーのある人が出てこない、農業者に求めるのは厳しい。</p>
委員	<p>やる気のある農業者で今年度さいかつ青年部を立ち上げて活動している。三郷、八潮、松伏の広域の団体。</p>
市長	<p>農業生産者は吉川にとらわれないでさいかつの青年部にも声掛けしたい。</p>
委員	<p>花園インター近くに農業中心のアウトレットが出来るが、あそこまでいなくても、やる気のある農業者を増やしていけばいつか吉川でもそんなことができるのでは。</p>

委員	<p>前回の会議で道の駅の話が出たときに、吉川の農業だけでは商品がいっぱいにならないという現状があるのだとすれば、今のうちからさいかつだとか広域を視野に入れて農業を考えた方がよい。</p>
市長	<p>産業フェアの参加者を、農業者について少し広げた分野で練り直す。ここまですた意見をもとにアウトラインが出来たらもう一度郵送なりメールで委員に連絡する。</p> <p>話は変わるが酒プロジェクトについて、新しい酒米で耕作してもらえそうな話が進んでいる。これも産業振興につながるものなので皆さんも協力してほしい。</p> <p>(2) 経済的困難な生徒への支援についてについて 資料2により説明</p>
小林副部長	<p>市民シンクタンクの中で、企業の経営者から経済的に困難で大学に進学できない子供たちに吉川の企業たちが協力し合い何かできないかという意見が出た。そしてそれを通じて企業同士が交流し、経営ノウハウなどを情報交換できるようにしたいというものだった。</p> <p>担当課からは、地域貢献活動団体の中で協賛金をいただきながら基金の検討などを行っていく、その中で企業間の連携を図っていくと回答をもらっている。</p>
市長	<p>産業振興条例・計画の中では奨学金だとか明確なものは書かれていたか。</p>
課長	<p>奨学金は書かれていない。計画の中に教育機会の提供として、市と市内事業者が協働で子供や若者の教育機会の提供を推進しますと書かれている。この場では、産業界としてどのような支援をしていけるか意見をいただきたい。</p>

<p>市長</p>	<p>今回小学生のものづくり体験で、市内事業者の協力でメッキ体験をしたり、商工会で木工体験をしたりと教育の機会を提供しているが、奨学金のようなものは出来ないか。吉川市としてサポートをするか。</p>
<p>委員</p>	<p>SDGS債というのがあって、社債を発行してその利子分を小学校に寄付するというのをやっている。寄付先を選ぶことが出来るので、母校に寄付することにした。</p> <p>市と銀行が提携して、基金を集める枠組みを作って投資した資金の利子分を奨学金の元手としてプールする方法もある。運営するにあたって選考委員がいたり第三者的な立場の人がいたりする必要がある。</p>
<p>市長</p>	<p>市が企業から基金を募って奨学金の運営をするという方法は現実的ではない。銀行が入って母体になってほしい。今日は銀行さんが欠席なのでこれ以上話が進まない。</p>
<p>委員</p>	<p>今は利子が低いので現実的ではない。基金を集めても奨学金として出せる金額はかなり低くなる。企業は労働者が少ないので、新卒者とかがほしい。人材確保という視点で大学進学前に選考して支援という形であれば企業はお金を出すと思うが、一般の経済的に困難な児童にというとなかなか難しい面がある。</p> <p>今は、奨学金をもらって大学まで卒業しても就職が決まらなくて返済ができない人も多い。そういう人を仕事にうまく斡旋することの方が重要なのではないか。お金を出すだけではなく、そういう人たちをきちんと雇ってあげることが必要。</p>
<p>委員</p>	<p>先ほどのSDGS債のような枠組みを作るのも一つ。</p> <p>あとは吉川市として奨学金を返済する学生を支援しようというのも、例えば支える企業の承認制度を作って、ある一定の基準を満たしていれば市から承認され、企業はそれを求人の際に出していけるとい</p>

委員	<p>うものもいいのではないか。そうすればお互いにとってプラス。</p> <p>企業としてのかかわり方として奨学金というのも産業振興になるかどうか疑問。それよりも市内にはこんな事業者がいる、こんなものを作っているということを、学校の事業や課外活動で知ってもらうのも教育の機会としては需要である。大学になってからでは遅いので、小・中学校くらいから市内の事業者を知ってもらう機会を作っていきたい。</p> <p>次回の産業振興会議では奨学金かどうか、もっと違ったかかわり方も出来るのではないかなど話していきたい。</p> <p>(3) 議会の報告について 資料をもとに報告。</p> <p>6. 閉会</p>
<p>以上、会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名する。</p> <p>令和2年 1月 日</p> <p>署名委員 染谷委員 (自署) 署名委員 田口委員 (自署)</p>	